

BOOK INFORMATION FORUM

人身御供や人柱とは何か!?

生身の人間を捧げられる神の野蛮とは!?

神、人を喰う

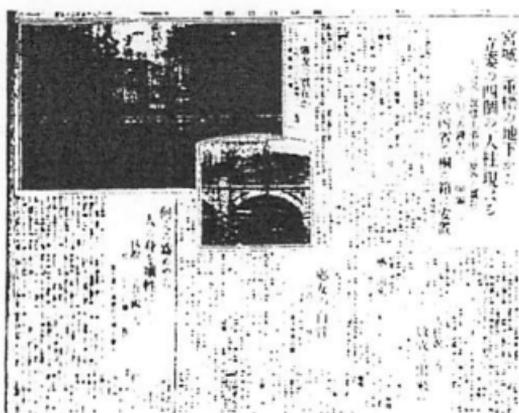
▼六車由実著

かつての日本各地では、神と人とが交歓・交感しあう聖なる場に、鹿や猪、兎、鴨などの鳥獣の肉や血が供えられる祭りが行われていたし、現在も同様の祭儀を踏襲している神社もある。

奇祭、あるいは稲作以前の狩猟

祭祀の伝統を残す祭りなどと解説されることが多いが、はたしてそうなのか。

そうした異様で暴力的な祭りの延長線上に、人身御供もイメージされる。鳥獣と若い娘という違いはあるが、どちらも神様が最も好



↑皇居で「人柱」が発見されたことを報じる「東京日々新聞」の紙面。

む食べ物であると思われる点では、深い関係がある。

なぜ、人は鳥獣や生身の人間を食べ物として神に捧げるのか。そして、現代人がそうした野蛮で残酷な祭儀に、違和感や嫌悪感を覚えがちなのはなぜなのか。

本書は人身御供祭祀の分析を通して、祭りに要請される「暴力」とその意味を考察したもので、次の各章からなる。

「人身御供」はどのように論じ得るか／「人身御供の祭」という語りと暴力／祭におけ

る「性」と「食」／人身御供と殺生罪業観／人身御供と稲作農耕／人柱・人身御供・イケニエ

従来の供犠や生贄についての研究を批判し、独自の論を展開した学術的論考である。(新曜社／2500円(税別))

神人を喰う

人身御供の祭儀

六車由実
Mitsuru Yuki